

飼料用米「みなちから」の後期管理について

1 生育概況

(1) 育苗

育苗中のごま葉枯れ病等の病害は、昨年比べて極めて少なかった。

(2) 田植え～生育中期

田植えはほぼ順調に行われ、田植え後の活着は良好でした。ほ場によっては7月中旬頃まで田植が行われました。梅雨入りが5月29日と平年より6日早く、降雨日、降水量ともに多く、気温も平年より高く経過したことから、軟弱徒長傾向で生育はやや早くなっています。ほ場によっては、除草剤の効果が十分でなく、雑草が多発しています。後記の「2(2)雑草防除」を参考に除草しましょう。

(3) 病害虫

・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

田植後の大雨により深水となり、ほ場によっては食害が多くなりました。

・いもち病

「みなちから」では現在発生していません。

・白葉枯病

7月10日の大雨で冠水した地域で発生が見られます。

・ごま葉枯病

昨年より発生は少なくなっています。

・イネカメムシ

まだ出穂していないので加害はありませんが、昨年より発生が多くなっています。

・ウンカ類

7月以降、飛来していますが、ウンカに効果の高い箱施薬剤の使用が増えたことから、ほ場での発生量は少なくなっています。

2 今後の管理

(1) 水管理

・中干し後は「間断灌水」。

・幼穂形成期以降は水が必要。

・穂ばらみ～開花期は「浅水湛水」。特に出穂前後1週間程度は湛水状態を保つ。

・登熟期（開花期以降）は「間断灌水」。

開花期以降は新たな根がでないため、根の機能を維持することが重要。

・落水は可能な限り遅くする。早期落水は充実不足、品質低下を招く。

■間断灌水の目安 『3湛2落』

①入水して湛水（2～3日で自然に落水）

↑

②足跡に水がたまる程度で1～2日

↓

※①→②を繰り返す。

台風時は・・・ 風が吹く前から通過後2～3日間は深水

・風による萎凋（しおれ）、葉傷み防止

（畦崩壊の恐れがあるほ場は浅水管理 → 台風通過後に深水）

(2) 雑草防除

- ・特に雑草が残っている場合は、下表のいずれかを使用して雑草を減らしましょう。また、カメムシ類の本田飛来軽減のため、畦畔・草ムラの除草を徹底しましょう。
- ・出穂直前の畦畔の草刈はカメムシ類を畦畔から本田へ追い込むことになるので、草刈は出穂の10日前頃までには終わらせましょう。

雑草の種類	除草剤	10a 使用量	使用時期	備考
ノビエ	クリンチャーEW	落水処理 100m l / 水 25～100L	田植後 20 日～ ノビエ 6 葉まで (収穫 30 日前まで)	展着剤加用。雑草の茎葉によく付着するように散布。
	クリンチャー 1 キロ粒剤	湛水処理 1 kg	田植後 7 日～ ノビエ 4 葉まで (収穫 30 日前まで)	
広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	落水処理 500～700m l / 水 70～100L	田植後 15～55 日 (収穫 50 日前まで)	処理後 2 日以内の降雨は効果不安定。
	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)	落水処理 3～4 kg	田植後 15～55 日 (収穫 60 日前まで)	
ノビエ 広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	クリンチャーバス ME 液剤	落水処理 1000m l / 水 70～100L	田植後 15 日～ ノビエ 5 葉まで (収穫 50 日前まで)	展着剤加用なし。 雑草によく付着するように散布。
	フォローアップ 1 キロ粒剤	湛水処理 1 kg	田植後 15 日～ ノビエ 5 葉まで (収穫 60 日前まで)	

(3) 穂肥

- ・散布は幼穂長を目安に行って下さい。また、葉色が濃くても穂肥は基準通り施用して下さい。（「みなちから」は耐倒伏性が強く、多肥栽培が可能です）

※目標収量達成のためには多肥栽培を行う必要があります。基肥一発肥料(ハイエムコート30等)を施用していない場合は、必ず穂肥を施用しましょう。

○1回目：出穂前23～20日頃（幼穂長1～2mm） 硫安 15kg/10a

○2回目：1回目の7～10日後 硫安 15kg/10a

■移植時期別、1回目の穂肥時期の予想

6月5日移植		6月12日移植		6月19日移植		6月26日移植	
出穂期	穂肥時期	出穂期	穂肥時期	出穂期	穂肥時期	出穂期	穂肥時期
8月21日	7月29日 ～8月1日	8月24日	8月1日 ～4日	8月27日	8月4日 ～7日	8月30日	8月7日 ～10日

※予想ですので、ほ場で必ず幼穂を確認しましょう。地域や栽培管理によって出穂時期は異なります。

(4) 病害虫防除

■**稲こうじ病対策**・・・稲作情報 No.5 を参考に防除しましょう。

■**イネカメムシ対策**・・・加害されると不稔粒が大量に発生し大幅に減収します。
稲作情報 No.5 を参考に防除しましょう。発生地域は昨年より大幅に拡大しています。

■**いもち病・紋枯病の対策**・・・下表を参考に防除しましょう。

	薬剤名	使用量	使用時期
粉剤	ノンブラスバリダ粉剤 DL	3 ～ 4 kg/10a	収穫 14 日前まで
液剤	ダブルカットバリダフロアブル	1,000 倍液 60～150ℓ /10a	穂揃期まで

■**いもち病の対策**・・・下表を参考に防除しましょう。

	薬剤名	使用量	使用時期
粒剤	ゴウケツ 1 キロ粒剤	1 kg/10a 散布	出穂 5 日前まで (収穫 30 日前まで)
パック剤	ゴウケツパック	10 パック/10a	

■**いもち病、紋枯病、ウンカ類、稲こうじ病の対策**・・・下表を参考に防除しましょう。

	薬剤名	使用量	使用時期
粒剤	ゴウケツモンスター粒剤	3 kg/10a	出穂 5 日前まで (収穫 45 日前まで)

■ウンカ類対策

ウンカ類の防除情報については、発生に応じた防除時期を稲作情報でお知らせします。

	薬剤名	使用量	使用時期
粉剤	トレボン粉剤 DL	3 ～ 4 kg/10a	収穫 7 日前まで
乳剤	トレボン乳剤	1,000～2,000 倍 60～150ℓ /10a	収穫 14 日前まで
豆つぶ剤	スタークル豆つぶ	250 g /10 a	収穫 7 日前まで

※薬剤散布は日中等の高温時を避け、夕方の涼しい時間帯に散布しましょう！

トラクター等による農作業事故が増えています。
「安全」を心がけ、作業の際は声を掛け合いましょう。

- ・機械を動かす際は、周囲を確認する。
- ・後退時は、十分に後方を確認する。

